



星 魂

2025年2月発行

東京都渋谷区富ヶ谷2-10-7 TEL.03-3467-8111 発行人:金谷 義孝



坂の上の雲



東海大学付属望星高等学校同窓会 会長 金谷 義孝

2024年11月からドラマ「坂の上の雲」の再放送が始まった。司馬遼太郎原作の「坂の上の雲」だ。

この小説は最も好きな小説のひとつであり、このドラマは15年ほど前に放映されたものである。前回放映された時から待ちわびるほど好きなドラマだった。

小学校に入学した昭和30年頃の教師には憲兵隊あがりも多くいて、ビンタは当たり前で体罰があつても、親にはお前が悪いと言われる始末だった。現在なら体罰で大騒ぎになるだろう。

12日の放映は「広瀬、死す」だったが、日本初の軍神とされた広瀬武夫少佐の殉職の場面であつた。

私が子供のころは日清・日露戦争に従軍した老人がは沢山いた。そして大抵の方が、なぜか懐かしそうに喜々として話して聞かされた。旅順陥落の時は提灯行列まであり、国民は狂喜乱舞したらしい。まるで国全体が戦争を肯定してい

るかのようだ。広瀬武夫少佐の話など、さも見てきたように滔々と涙目で、話す老人のことを思い出す。何回も聞かされたが嫌で無く、わざわざ聞きに行くほどであつた。

日清・日露戦争を反対した人々もいる。社会主義者以外にもキリスト教徒の内村鑑三、歌人の与謝野晶子もいる。内村鑑三先生は日清戦争時では賛成論者だったが、日露戦争は反対だった。又、後に松前重義先生にも多大な影響を与えたとされる。与謝野晶子は「君死にたまふこと勿れ」と題する歌もよんだ。

ちなみに先に述べた軍神広瀬武夫少佐は柔道六段の武道家でもあつた。広瀬武夫少佐は1904年3月27日に戦死したので、1901年10月24日生まれの松前重義先生と柔道対戦はありえないが、柔道つながりの縁だ。現在の日本人は平和ボケしている。いき

なり暴漢から襲われる事もあるだろうが、暴力反対と叫んだところで、暴漢がや辞めるとも思えない。逃げるなり戦うなり、自分の身は自分で守る事は必要だと思ふ。朝鮮や中国・ロシアからミサイルが撃ち込まれたら、いくら安保条約があつてもアメリカ人が、自分達を犠牲にしてまで日本を守ってくれると思えない。

太平洋戦争は悲惨であつた事、敗戦だった事もあり、戦争反対は当然起きる。又、日本兵の勇猛果敢さを恐れたGHQや日教組の教育によって日本人は完全に牙を抜かれた。その中で生まれた贖罪意識が、反省の心を持つ日本人の中に自虐史観として現れた。そして「戦後の日本精神、武士道精神」が失われて、アメリカの思うように操られる日本が生まれたのである。

私は戦争肯定論者ではない。66年継続している空手道の教えの中

に「長年修行して、体得した空手道の技が、生涯を通して無駄になれば、空手修行の目的が達せられたと心得よ」との教えがある。武力は使わなければ、こんな平和な事はない。平成の失われた30年を取り戻すべく、経済の復興を目指す手段の一つとして、古臭いが日本精神の復興を門下生に引き継ぎ、かつてのジャパンアズナンバーワンを再度目指したい。



望星高校の開校当初を振り返る

校長 吾妻 俊治



東海大学付属

望星高等学校は、

1959年(昭和

34年)に東海大学

付属高等学校通

信教育部として開

校しました。今回は開校当時の模様を内本

文英先生が昭和50年頃記された文書を紹

介したいと思います。(原文のまま)

● ● ●

東海大学が渋谷区に富ヶ谷に移転し、ここに本部をかまえたのが昭和30年のことである。本部は1号館に置かれたが、その時1号館三階の鉄筋コンクリートの建物が完成した。完成してまもない頃であったと思う。部屋に机・椅子などもすっきり揃っていない。かつた頃、数人の教職員が松前重義総長をかこんでその話を聞いていた。

「富士山にアンテナを建てて、そこからFM放送を流したい。そうすると日本の半分ぐらいをカバーすることになる。その放送に教育放送をのせたとする。たとえば高等学校の授業放送をだ。全日制や定時制には通えないが、勉強したいと願っているたくさんの人たちがこの放送を聞いて勉強することになる。そうして試験をして高等学校卒業の資格を与えることもできる。それを東海

大学の手で行いたい。」

FM放送の存在すら、ほとんどの人の理解していなかった頃である。ひとつの大学が

(その当時の東海大学は現在の百分の程度

の大きさでしかなかった放送局を持つて、それを運営し、その放送に教育放送を

盛り込んで流すというのである。まさに夢

のような話であった。富士山のアンテナ問

題は実現しなかったが、夢が夢でなくなっ

ていった。

一

号館の後方に二号館【※写真】(X字型

五階建、鉄筋コンクリート)の建設がはじ

まっていた。五階の上にさらに二階分の塔

をのせ、その上に約10メートルのアンテナを

建てる。計画図通り建築はすすんでいき、

放送局は昭和33年12月開局をめざしてそ

の準備をすすめていた。教育面の問題、特に

通信教育課程の学校認可の問題をいそが

ねばならなかった。

東京の上野高校、埼玉の浦和高校と大

阪の近畿大学付属高校、同じく大手前高

校、和歌山の桐蔭高校、兵庫の長田高校な

どを訪ねて事情を聞いた。上野通信の当時

主事であった古沢先生は「放送による通信

は、自由であるべき通信の学習を定時にお

しこめる形になる。新しい形である。純粋な

通信教育と、ある枠をはめた形になる通信

と。いく通りあってもいいではないか」と応

援してくれた。浦和の朝日稔先生も応援し

てくださった。文部省の鮫島先生(当時は中

等教育課の課長補佐であった)、近畿大学

付属の栗本先生、大手前の板原先生、みん

な力をかしてくださった。

実験放送がはじまったのは予定通り昭和

33年12月31日で、通信の認可が東京都から

おりたのは、翌34年3月31日であった。名称

は東海大学付属高等学校通信教育部。普

通科、修業年限は5年以上(翌年4年以上

と改められた)学年定員750名であった。

受信機は当時市価三万円程であったが、大

学の持つている学校工場で二万円以内の受

信機を製作、生徒たちに貸与する形をとっ

た。授業料は月額三百円

であった。

放送授業は午後7時

から9時まで。放送担当

者は荒巻鉄雄、岩田九

郎、牧野不二雄、宮本延

人、原田敏明、内木文

英、平林文雄、尚樹啓太

郎、渡辺宏、星清、上山

馥などで、大学のスタッ

フの方が多かった。5月

31日授業放送開始、6

月7日入学式兼第1回スクーリングが開か

れた。新入生40名のうち、スクーリングに顔

を出した者31名、教員11名、事務職員1名

と記録に残っている。

昭和38年4月、東海大学付属望星高校

として独立するまでの悪戦苦闘は、筆に書

きつくし難い。

独立校となつて、それまで通信教育部長

であった宮本延人先生が、望星高校の初代

校長になられた。教頭は内木文英、専任教

諭6名、事務職員6名、講師19名。生徒数

は67名であった。(以下略)

● ● ●

現在は少子化の影響から、全日制・定時制高等学校は年々生徒数を減少させている



のに対し、通信制高校は学校数、生徒数を増加させ、「高校生十人に一人は通信制」の時代が来年度にも到来すると言われている。

一方では様々な通信制高校が誕生する中で、「通信制高校はどうあるべきか」が議論となつています。私立通信制高校の先駆けとして、60年以上歩み続けた本校が、今後どの様に進むべきか、私自身、開校当初の教育理念を見つめ直すことが必要ではないかと思ひ、卒業生の皆様にも内木先生の文書をご紹介しました。

同窓生の皆様におかれましては、これらの望星高校にも気にかけて頂ければ幸いです。

30年ぶりの再会

28期 大谷 あづさ

今年度、連合同窓会が付属の相模高校で開催されました。連合同窓会という言葉は初めて聞く方もあると思いますので簡単に説明します。連合同窓会というのは、各付属高校の同窓会役員が年一回總會に出席し、それぞれの同窓会の現状報告や情報の交換をする会です。この会の開催会場校（当番校）は持ち回りです。単独で行う高校もあれば、いくつかの学校が協力しておこなう場合もあります。今年度は、相模高校を中心として望星高校もお手伝いをさせて

いただきました。

私がこの連合同窓会に初めて参加したのは北海道にある付属の第四高校（現・札幌高校）でした。いまから30年前のことです。初めての参加で何もわからない私は下倉会長（当時）、金谷さん（現・会長）、漆谷さん、長南さんの後ろをたどって回っていたのを覚えていいます。そしてその30年前に大変お世話になったのは第四高校の当時会長・副会長されていた池田さん・中山さんのおふたりでした。北海道では分らないこと、今まで経験したことがないことばかりで、とても衝撃を受けた連合同窓会となりました。

今回の連合同窓会ではうれしい出来事がありました。信じられないことにこの長い年月を経てその池田さんとまた再会をすることが出来ました。私は連合同窓会になかなか参加することができていなかったのですが正直私のことを覚えていてくださるか不安でした。けれど勇気を出して声をかけてみることにしました。「望星高校の大谷あづさです。覚えていますか？」するとうれしいことに「覚えています。覚えています。」という声が返ってきたのです。その言葉をきっかけにその当時の記憶がどんどん蘇り、30年前の出来事がつい最近の出来事だったかのように感じました。

そして翌月には夫婦で北海道旅行をする機会がありました。この旅では登別・函館・

小樽・札幌という行程になっていました。いろいろな観光地を巡る中で、30年前の記憶が再び蘇り、昭和南山の前で集合写真を撮ったことや、小樽でウニを食べたこと、大人ばかりの中でとても緊張をしたことなどたくさん思い出すことができました。そんな北海道旅行の最後の夜の札幌では再び池田さんにお会いすることができ夫婦で美味しいお酒と美味しいお料理を頂きながら楽しい時間を過ごすことができました。最終日の新千歳空港を離陸する際にはまたこの北海道に來たい、また池田さんに会いに北海道に來たらと強く思いました。

今年卒業される皆さんの中には同窓会にはあまり関心がない人がいるかと思ひます。しかし、私のような他の付属の同窓会の役員の方々との出会いがあり、そこには学びもありました。各付属での独特な文化・食



文化や方言—も学ぶことができました。これらのことは教科書では決して学ぶことができない。同窓会役員になって初めて学ぶことができたことです。

最近、同窓会の会議にはほとんど参加できていませんが、今回、同窓会役員をしていてよかったと思ひます。役員をしていなかったらこのような再会はありませんでした。ほんとに役員をしてよかったと思ひます。

新校舎での日々

渡辺 礼子

望星高校が2021年4月に新校舎にお引越しをしてから、4年が経とうとしています。

新校舎に移つてからの、一番大きな変化がWクラス（水曜クラス）のスクーリング日が水曜だけでは賄いきれなくなつたことです。新校舎は東海大学代々木校舎5号館の居候ではなく、望星高校だけの校舎となりました。これは非常に喜ばしいことでしたが、その一方で、建物の規模が小さくなつたために、Wクラスの1年次生は金曜日にスクーリングを受けることとなりました。また、紆余曲折の結果、体育スクーリングは今年度は主に木曜日に校外の施設で実施するようになりました。

ただでさえ新校舎になり、建物に対する思い入れが一新されてしまいましたが、ここ

数年で退職や転勤で望星高校を卒業されていた先生方もいらつしやいます。特に2023年度末には、地歴公民科の名和優子先生、保健体育科の沢田久見子先生、英語科の高倉洋子先生、英語科の林実優先生が望星を巣立ちました。いきなり一度に4人の女性、それも望星歴の長い女性が3人も減ったため、その影響は大きいと私は感じていますし、私自身がとまどいと寂しさを払拭できずにいます。

さて、そんな望星高校ですが、新型コロナウイルスがインフルエンザと同じ扱いとなり、いろいろと復活したものもあります。

一番は、建学祭(文化祭)。新型コロナウイルスの変化により、昨年度(2023年度)には建学祭で、模擬店が復活しました。同窓会のランクフルト屋と建学祭実行委員会のカフェのみでしたが、感慨深いものがありました。今年度(2024年度)の建学祭では、同窓会のランクフルト屋と建学祭実行委員会のカフェに加え、1年次の焼きそば屋、3年次の豚汁屋、バスケットボール部のやきとり屋も出展されました。一般の生徒の団体や運動部が模擬店を行うなど、コロナ以来のことになります。建学祭では、狭い校舎・敷地の中で創意工夫していろいろな出し物を行っています。特に変更がなければ、建学祭は10月の最終日曜日に行われますので、ぜひ訪れていただき、在校生と一緒に見て食べて楽しんでいただければ幸いです。

です。

次に復活したものが生徒会主催のクリスマス会です。ただしそのままの形での復活にはなりません。これは、コロナの影響で学園オリピックや生徒会長会議の実施方法や時期が変更になり、その余波で12月に生徒会行事を行うことが難しくなつたため、クリスマス会の開催時期を秋学期(後期)期末試験後に変更し、名前もお疲れ様会と改めました。卒業予定生は受験期であり、1年間の学習が終わつた後の非登校日の開催なので、やや盛り上がり欠ける面もありますが、今後の工夫に期待したいと思います。私としては、クリスマス会も復活して欲しいと切に願っています。

最後に、今年度末に、学校長の吾妻俊治先生、国語科の石綿泰之先生、理科の松本一先生が定年を迎えます。こちらの先生方にお会いしたい方は、今年度の3月12日の終業式までに、学校をお訪ねください。尚、出張等がありますので、職員室0334678112に電話して約束を取り付けておくことを強くお勧めします。



第六十二回 望星同窓会総会のご案内

コロナとインフルエンザが流行しているようですが、お元気にお過ごしですか？

久しぶりに同級生を誘って、新校舎を見学がてら同窓会総会に参加してみませんか？

懐かしい先生方や仲間たちと昔話に花を咲かせてみませんか？

懇親会はケータリングで軽食をご用意してお待ちしております。

今年も下記の卒業生はワンコイン五百円で参加できます。クラス会を開きましょう。

皆様のお出でを、先生と同窓生がお待ちしております。出席は直接かホームページから申込みください。又、近況をお知らせください。

記

日時：令和七年六月十四日(土)

午後二時より総会

午後三時より懇親会

場所：総会・懇親会(当日表示)

会費：二千円

ご夫婦での参加三千円

二期・十二期・三期・三期・四二期・

五二期並びに今年六二期卒業生は五百円

編集後記

昨年の12月に長崎で中学校の同期会が開かれた。参加者は60名位だったが、卒業して62年の歳月が過ぎたのに、この参加人数は絆の深さがうかがえる。

今回の同期会には、授業を受けた先生が、ついに二人も出席していなかった。

中学三年生の時に新任の先生が22才だとしたら、今は85才位だから、出席されていなくても不思議でもない。よく60年も続けたものだし、飽きもせず東京から長崎までよく通つたものだ。中学生の頃を思い出しながら、利害関係も無い友と飲む酒はひととき美味しいからだろう。

私は愛校心・愛郷心がひととき強いのか、卒業した学校の校歌や応援歌は、今でもすべて歌える。帰郷したついでに、行つたことのない場所や温泉を巡るのも楽しみ一つだ。子供の時はあれだけ美味しいと思つた食べ物も、感動がなくなつたり、新しいものに会つたりと、これも旅の醍醐味だ。元々、一人旅や知らない町をさすらいことも好きだし、新しい発見が仕事につながることもある。

卒業した中学校に訪問したら、この学校も統廃合で無くなること事だつた。昔とは周りの景観も、大きく変わり畑ばかりだつた所が、今では住宅街になっている。

小学校に行ってみると、ライバルだった小学校と統廃合で二つの校名を安直につなげたものになつてた。

望星高校も生徒も役員も大きく変わってきている。最近の勉強方法はわからないが、レポートの書き方もワープロ打ちでコピーは当たり前でタブレット等のメディアを使つて学ぶのも、時の流れとしては当たり前だ。

今回の会報原稿も書き手が少なくなり、会報紙面も小さくなった。会報も廃止の時期に近づいているかもしれない。

長崎の町並みもあれだけ賑やかだつたところだが今はシャッター街になっている。栄枯盛衰は当たり前だが寂しさも感じる。そろそろ団塊の世代の我々も平均寿命に近づく。店じまいの準備でもする時なのかもしれない。

